

日ノ保身ヲ策シタル向モアルヤニ傳ヘラレタル處今大戦果ノ結果我國力ノ偉大且強靱ナルコトヲ知リ差當リ勳揚ノ兆認メラレシテ而シテ支那事變前ヨリ吾方ニ協力シ蒙古政府發達ニ盡力シタル要人ハ吾方ト運命ヲ共ニセントシテ氣魄ヲルモノ多シ

(内)漢民族五百五十萬人ハ地區内ノ主勢力体ニシテ陰山山脈以南ニ居住シ各重要事業場ニ於ケル勞力供給源ヲナセリ一殷ニ中北及北支ニ比シ民衆頗ル低ク大東亞戰爭ノ勝敗ニ左シテ大ナル關心ヲ有セサルモ之カ指導及把握ノ成果ハ當地區ノ戦力増強ニ相當大ナル關係ヲ有スルトコロ近時重慶及延安ノ地下工作ハ漸次滲透セントスル傾向ニアリ眞ニ吾方ト協力シ大東亞戰爭ヲ闘ヒ抜カントスル氣魄概シテ稀薄ニシテ一身ノ安全ヲ保セントスルモノ多シ

(二)回教民族五萬ハ地區内ニ於テ少數ナカラモ團結強ク對日信賴感相當強キモ之レトテ戦局ノ如何ニ左右サルトコロ多シ

以上現地象、漢、回系ノ大部分ハ要スルニ安居樂業ヲ冀フ以外差シタル意欲モ有セス當面ノ諸物價高カ彼等ノ日常ニ於ケル最大關心事ナリ

2 印度假政府樹立及ビルマノ獨立耳、他世界狀勢ニ對スル認識等
昭和十八年初頭ニ於ケル國府多戰及對支新政策ノ實施同年八月一日、ビルマヲ獨立シヤワ原住民ノ政治參與ノ許容十月十四日、比島獨立前二十一日、自由印度假政府ノ樹立等ノ諸段階ヲ經テ十一月五日、六日ノ兩日ニ亘リ大東亞會議ノ開催ヲ見又昭和十九年三月日ソ間北樺太利權移讓及新漁業條約締結ニ伴フ國交ノ明朗化效ニ同年九月十八日臨時議會ニ於ケル小磯首相、インドネシヤ七千萬民衆ニ對スル獨立保障等ノ政治攻勢ニ依リ大東亞戰爭完遂途上ニ於ケル帝國政府ノ公正ナル意圖ハ極メテ明瞭ニ大東亞諸民族ニ展示サレタル次第ナル處右ハ當地區内民衆ノ大多數ニ對シテハ殆ント影響ナク一般ニ斯ル國際政局ニ對シテハ無感覺ナリト斷言シ得ヘ

シ唯ニ政治的意欲強キ一部謀系要人及近代的教育ヲ受ケタル蒙古青年ノ一部間ニ在リテハ年來冀求シ來レル蒙古獨立問題ニ關聯シテ時世ニ取リ殘サレタルヤノ感ヲ深クシ日本頼ムニ足ラスノ言辭ヲ洩シタル向アリタリ而シテ一般漢人層ハ別段氣ニモ止メス寧ロ北支又ハ重慶勢力ノ滲透ヲ觀迎スルヤノ氣風アリト認メラル其ノ國際狀勢ニ關シテハ一般ニ之亦鈍感且無智ニシテ一部有識者層ニ於テ反樞軸側ノ優勢ヲ傳ヘ聞キ米英ノ物量ニ對スル物的信頼感ヲ放棄シ得ス内心日本ノ敗退ヲ豫斷シ居ル分子アリト認メラル

一 外蒙ノ動向

チヨイバル分政權ノ確立後地域内百萬ノ民心ヲ專ラソ蒙不可分ノ施策ニ指向セルカ獨ソ開戦後反獨、反アツシヨ戰争遂行ノ一點ニ凝集シ一ゾ聯ノ運命即チ外蒙ノ運命ナリトノ政府大重ノ宣傳ト相俟チ外蒙ノソ聯依存度ハ頓ニ濃化シツツアリ

行政組織ハ總理ノ下ニ十二箇ノ人民委員部アリ又國內ヲ十八部、四特別市(ウラツバル、チヨイバル、アルトシブラク、スヘバートル)ニ區劃シ各部ヲソム、バクニ分チ各々ソソエト會議組織ヲ有シ行政事務ヲ處理シツツアルカ右ハ表面的行政執行機關ナルニ過キス根本國策ノ策定ハ蒙古人民革命党及革命青年同盟幹部會ノ指導下ニアリ國家保安部ハ側面ヨリ行政機關ニヨル加政ノ具体化ヲ監視スルモノトスソ聯ハ夙ニ東ソ聯防衛ノ外廓地トシテ外蒙ノ占ムル政治的地理的重要性ニ著目シ駐蒙ソ聯大使イワノフ以下内面指導自ラ政治、軍事、經濟ノ各部門ニ配置シ又ソ蒙相互援助條約ニ基キ機械化部隊ヲ中心トスル優勢ナル正規軍ヲ國內各地ニ進駐セシメ只管外蒙政情ノ動搖防止ト防衛態勢ノ強化ヲ進シアリ

2 軍情

駐外蒙ソ第十七軍ハ機械化狙撃師團二箇、同獨立聯隊二一三箇、

飛行師團一個ヲ基幹トシ總兵員數約二八〇〇〇戰車約一四〇〇裝甲
自動車約二〇〇飛行機少クモモ有ス

外蒙軍一國境國內警備隊ヲ含ム一ハ騎兵師團六個及騎兵旅團一個
ヲ基幹トシ總兵員數約三〇〇〇〇、裝甲自動車約一八〇飛行機約
四〇ヲ有ス

駐蒙ソ軍各兵團ニ於ケル兵員ノ素質其他ノ戦力ハ獨ゾ開戦以後行
ハレタル累次ノ兵力西送勳員其他ニヨリ戦前ニ比シ相當低下シテ
リト認メラル

3. 經濟概況

外蒙ノ經濟機構ハソ聯ノ對獨戰遂行ノ爲ニ總動員セラレ其ノ補給
機關トシテノ役割ヲ果シアリ而モソ聯ヨリハ受クモノヨリ少ク爲
ニ從來其ノ供給全部ヲソ聯ヨリノ輸入ニ仰キアリタル機械、石油、
綿絲布、穀物、雜品類等ハ殆ント枯渴シ爲ニ國內需給ノ均衡ハ失
ハレ國民生活ハ逼迫ノ極ニアリ

磚茶ハ一昨年初ヨリ全然入手不能ニシテ野草ヲ乾燥セシメテ代用
ニ供シテリ兩切煙草ハソ聯製バドコロトス喫煙サレタルモ現在ハ全
ク入手困難ナリ

一般民衆ハ所有家畜及物品ノ物々交換ニヨリ辛クシテ最低生活ヲ
維持シテリ勞働者、黨員、官吏、軍人等ハ各所屬消費組合ヨリ生
必物資ノ配給ニ與リ居ル狀況ナリ

4. 牧畜業ノ現況ト對ソ家畜輸出

昭和十六年夏獨ソ開戦以來本戦争ノ爲家畜ノ夥シキ對ソ輸出ヲ招
來シ家畜頭數ノ激減セル儘其ノ後顯著ナル増加ノ傾向ナシ昨年十
月現在總頭數二千四百五十萬頭ト推算セラレタルカ本年二月末外
蒙政府發表ニ依レハ總數二千三百五十萬五千頭ニシテ一百萬頭ノ
激減ヲ來シアリソノ主タル原因ハ對ソ多量輸出ニアリ更ニ食料難
ヲ自ル大量秘匿、密殺、怠業的管理ノ影響等又妙カラサリシモ、
如シ斯ル經濟的破局ニ直面シ外蒙當局ハ銳意家畜増加ノ諸方策

ヲ諒スルト共ニ對ソ輸出機構ヲ整備シ家畜ノ供出ヲ獎勵シ一方國
内消費ノ徹底的制限ヲ強化シ以テ八方之カ減耗ノ防止ニ努メツツ
アリ尙獨ソ開戦以來現在ニ至ル對ソ輸出番數ヲ推算スレバ約四百
三十一萬頭（内馬匹四〇萬頭）其ノ主用途ハソ聯農業勞働力ノ補
強ニ當テラレ或ハ老犬ナル戰用被服、食料需要ノ急ニ應セントス
ルモノノ如シ尙本年ハ降雨量少ク從テ飼料ニ付相當苦慮シ居ルモ

五、文化

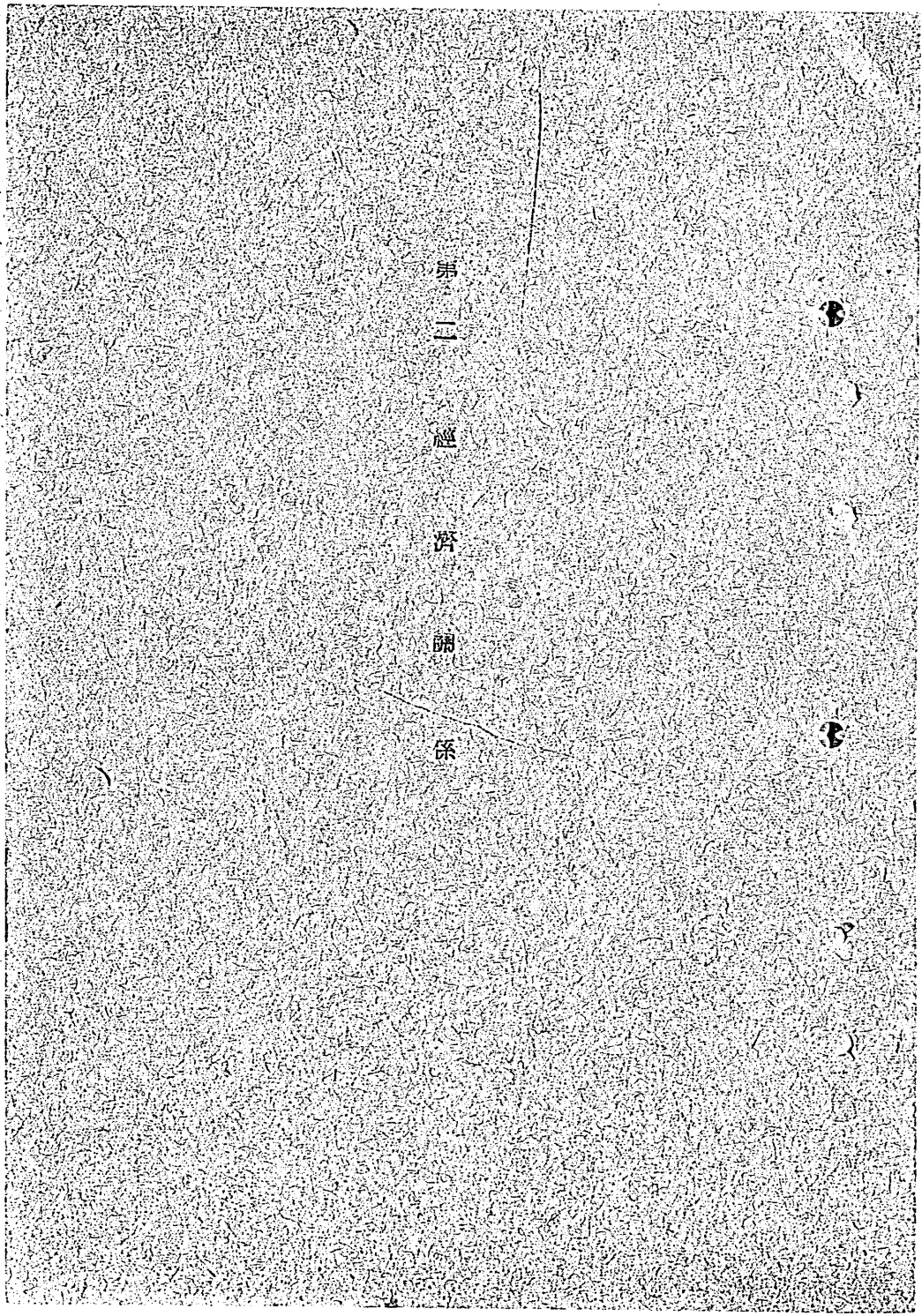
本年三月一日革命党二十三回成立紀念日ニ際シ党中央委員會發表
中「蒙古革命ハ内外ノ敵ヲ排除シタルノミナラス外蒙ノ文化革命
ヲモ成就セリ」ト述ヘタルカ如ク近來急速ニ文化施設ハ整備セラ
レ其ノ後モ日ヲ逐フテ擴充發展シ今ヤ外蒙ノソ聯化傾向ハコノ面
ニ於テモ昔日ノ倍ヲ止メサル程度ニ進歩セリ

一、西北支那ノ現況

重慶ノ對西北支那工作ハ政治面ニ於ケル所謂西北中央化工作ト經濟
面ニ於ケル西北開發工作トニ大別サレ得ル處昨年以來愈々積極化
シ概シテ圓滑ニ進メラレ居ルモノノ如シ
即チ第一ニ中央化工作ハ新疆省ニ於ケルソ聯勢力ノ後退ト共ニ俄然
活潑トナリ主席盛世戈モ其ノ親ソ政策ニ拘ハラス自己ノ政治的生命
維持ノ爲次第ニ重慶ニ頻リ呈スルヲ得サル結果同主席ノ重慶訪問ト
ナリ蔣介石ヲ初メ要路ト懇談スル所アリタルガ重慶ノ工作ハ猶モ致
効ニ繼續セラレ逐ニ本年八月末ニ至リテハ「蘇聯ノ對支感情ヲ惡化
セシムル政策ヲ採リタリ」トノ理由ノ下ニ重慶中央農林部長ニ傳出
シ至リ最高潮ニ達シタリ以上ノ工作ハ勿論軍事力ヲ背景トシテ推進セ
ラレタルモノニシテ右ハ新主席吳忠信ノ着任ニ至ルマデ朱紹良ラン
テ臨時職務ヲ代行セシムルト共ニ主席着任後ハ輔佐官トシテ主ニ軍
隊ノ指揮ニ當ランムル旨ノ重慶聲明ニ依リテモ明白ナリ又舊新疆省

國境警備隊ヲ改編シテ軍事委員會及公安局ニ隷屬セシメタル事實モ
軍事力ニ依ル中央北ノ好箇ノ例證ト云フヲ得ヘシ
尙米英就中米國ノ力ノ西北侵入ハ目下ノ虞難者ナラサルモ我方西南
作戦ノ進展ト共ニ陝西・甘肅方面ヘノ軍事力浸透漸ク顯著ナラント
シツツアリテ將來ノ動向ニ注目ニ値スヘシ
第二ニ西北開發工作ハ三年ハ昨年ノ調査時期ヲ終了シテ愈々積極開
發ノ時期ニ入り居ル處西北方面ヨリ歸來ノ駝商・喇嘛僧其ノ他ノ情
報ニ依レハ特ニ日ヲ引ク程度ノモノニハ非サルモ西北ルートノ補修
水利開發・玉門油田ノ開發其ノ他ノ各股ニ亘リ圓滑ニ進捗シツツテ
ルモノノ如シ
特ニ鑛工方面ニ對スル努力大ニシテ製油母ノ増加ヲ見ツツアリ西北
ルートノ發達ノ大部ヲ占メ居ルモノノ如ク重慶トノ交通モ昨年ニ比
シ頻發トナリ居レリ





REEL No. A-0552

0495

第二 經濟 財政及 貨金 融

一 蒙古政府豫算

蒙古政府豫算ハ曆年制ニシテ成紀七三九年度（昭和十九年度）豫算ノ編成ニ當リテハ大東亞戰爭ノ現段階ト四圍ノ狀勢ニ對處スヘク邊内治安ノ確立ト共ニ高度國防體制ノ完成ニ主眼ヲ置キ帝國ノ戰力増強ニ協力スルヲ以テ編成方針トスルト共ニ歳入ノ増加ヲ策シ浮動籌賈力ノ吸收ニ努ムヘキ旨ノ方針ニ基キ編成セリ而シテ當初豫算ニ於ケル一般會計歳入出總額ハ一四六三一一六七五圓ニシテ之ニ第四次追加豫算ヲ加フレハ二二〇二八二二二九圓トナル

歳入ノ主ナルモノハ租税ノ六八〇七五千圓（内國稅六三〇七五千圓專賣益金六〇〇〇千圓）歳入剩餘金六〇六〇千圓ニシテ歳入總額ノ九一%ヲ占ム

歳出ハ治安費ノ八六一一五九七四一圓ヲ第一トシテ行政費ノ三九四〇〇一六〇圓勸業費ノ一〇七六七四〇五圓民政費ノ八三二六八一八一圓ニシテ當初豫算ニ於ケル歳入出總額一四六三一一六〇八五圓ヲ前年度當初豫算歳入出總額ニ比スレハ六三、四七五、六六四圓ノ増加トナル而シテ本年度稅收ノ比較的良好ニシテ本年度八月末ニ至リテ既に八六%ヲ示セリ

特別會計豫算ハ政府職員共濟基金特別會計一、四九三、〇〇〇圓以需品特別會計二、一五五、〇〇〇圓政府債務整理基金特別會計七、五九八、〇〇〇圓國庫投資特別會計九、五七、八、一五、三圓國庫整理特別會計四、五五、四、六、六、三、六圓鐵道建設基金特別會計六、五九、五、四、八、〇〇圓國庫物資調整基金特別會計一〇〇〇〇〇〇圓ナリ而シテ鐵道建設特別會計ハ時局下資材勞力ノ關係ニ依リ年度途中事業ヲ中止スルコトトナリタ

次ニ蒙古政府ニ於ケル政府債及投資狀況ヲ見ルニ昭和十六年度一般

會計ニ於テ三千五百萬圓ヲ算シタル政府債ハ現在八百五十萬圓ニ減
 少セリ又各銀行會社ニ對シ本年十一月一日現在株金引受額及拂込濟
 額ハ左表ノ如シ

(單位千圓)

會社名	公積資本	出資額		備考
		引受額	拂込額	
蒙疆銀行	1,200,000	1,200,000	3,000,000	
蒙疆實業會社	1,000,000	4,190,000	2,398,000	
蒙疆建設會社	400,000	1,000,000	2,000,000	
蒙疆不動產會社	2,500,000	2,200,000	1,150,000	
蒙疆新聞社	2,000,000	2,000,000	1,000,000	
蒙古食品公司	500,000	4,400,000	3,400,000	
龍烟鐵礦會社	1,800,000	6,400,000	3,600,000	
大同炭礦會社	1,200,000	6,000,000	4,700,000	

蒙疆興業會社	500,000	1,000,000	1,000,000	
中華航空會社	500,000	1,000,000	1,000,000	
蒙疆礦產統制會社	600,000	3,000,000	3,000,000	
大青山炭礦會社	2,000,000	1,000,000	750,000	
蒙古運輸會社	3,000,000	1,500,000	3,500,000	
皮毛公司	1,000,000	500,000	250,000	
蒙古特産公司	2,000,000	1,000,000	516,500	
蒙古生活必需品輸入會社	4,000,000	2,500,000	2,500,000	物價調整資金 引受額
蒙古通信社	2,000,000	1,200,000	1,200,000	
蒙源礦業公司	1,000,000	600,000	360,000	
同和實業銀行	500,000	1,200,000	1,200,000	逆産株ナリ
食品公司	500,000	4,400,000	3,400,000	
興利製粉會社	1,000,000	2,400,000	2,400,000	逆産株ナリ
合計	63,620,000	28,918,600	18,519,600	

成紀七四〇年度豫算ノ編成ニ當リテハ大東亞戰爭ヲ以テ段階ニ鑑ミ政府施策ノ目標ハ擧ケテ戦力増強ノ一點ニ結集シ以テ參戰蒙古ノ使命ヲ達成セシムル方針ノ下ニ富大使館及軍ノ指示方針ニ基ク左記要領ニ準據シ目下編成中ニシテ各部署要求豫算額ハ概ニ四億圓ニ上ルノ状勢ナリ

①豫算ハ全テ重點的効率主義トシ特ニ資金、物資及勞務ノ効率ヲ最高度ニ發揮スル如ク工夫スルモノトス之カ爲勿論及勞務ノ供給ニ關シテハ既往ノ實績其ノ他ノ事情ヲ勘案シ眞ニ實行可能ナル範圍ニ於テ企畫ス

②既定經費ニ再檢討ヲ加ヘ戦力増強ニ直接關係ナキ經費ハ徹底的ニ之ヲ削減スルモノトス

③治安ノ確立、戰爭資源ノ緊急増産、民生ノ安定ニ必要不可欠ニシテ實行可能ナルモノハ軍及的支出ノ途ヲ闡スルモノトス

④中央地方ヲ通シ税制ニ再檢討ヲ加ヘ歳入ノ増收ヲ圖ルモノトス

⑤職員ノ新規増員ハ原則トシテ之ヲ行ハス既存人員ノ重疊的活用ニ依ル人事運営ノ高登ヲ期スルモノトス

⑥豫算ニ機動性ヲ附與セシムル爲メ特ニ多額ノ豫備金ヲ計上スルモノトス

一、蒙古政府ノ租税徵收狀況

蒙古政府治域ニ於テハ華變後三政藩時代及聯合後ニ於テモ國稅ハ暫時舊政權時代ノ税制ニ依リ徵稅シ居リタルモ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル要アルト富政權時代察哈爾、山西、綏遠ノ各省税制區々ナル爲治域内劃一税制ナラザル弊害アリタルカ漸次行政滲透シ近代の徵稅方法可能ナルニ及ヒタルヲ以テ昭和十五年八月元ツ捲於統稅法ヲ改正シ次テ各種統稅法ヲ始メ間接稅、直接稅ニ亘リ各種稅法ヲ改正シ昭和十六年末ニ至リテ近代の税制ヲ確立スルニ至レリ其後大東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒ他地域ヨリ高物價ノ勢波及シ來リ諸發進行ニ因ル移出物ノ増加移出物ノ價格ノ昂騰移入物資ノ減少ハ域内漸ク通貨膨



豫想セラル

豫銀券發行高

(單位千圓)

昭和十五年末	九三、〇一五
十六年末	一一三、七三三
十七年末	一四三、六七五
十八年末	二七、〇八一
十九年三月末	二七、六〇一〇
六月末	四二、六一九一
九月末	六八、〇五七

斯ル狀勢ニ鑑ミ、前年、來中央地方ヲ遠シ貯蓄ノ割當有獎貯蓄各種債券ノ發行等浮動購買力ノ吸收ニ努ムルト共ニ各銀行ニ於ケル貸出ニ付テハ、産業開發ノ進展ニ伴フ餘少ノ需要熾烈ナルモノアルモ、感力不急不貸資金ノ放出ヲ抑制セシムルト共ニ、其ノ間、取ニ努メツツアリ而シテ本年歲貯蓄目標ハ左ノ如ク

(單位千圓)

郵電局	三〇〇〇〇
銀行	一一〇〇〇〇
生命保險料	五〇〇〇〇
信用組合預金	一、五〇〇〇
其他	一三五〇〇
計	二六〇〇〇〇

國債、債券ハ割當少ク本年四月、六月、八月ニ購入セル國債四九萬圓債券一三萬圓ハ、概ネ消化セリ

對外爲替

對外爲替受拂ノ狀況ニ付テハ、近時輸出貿易ノ進展ニ伴ヒ對外收支ハ十八年度ニ於テ五千萬ノ受超(遺貨ヲ含マス)トナリ本年ハ一月ヨリ七月迄ニ既ニ一億七千萬圓ノ受超ヲ示セリ、嘗テハ在外爲替資金ニ多大ノ困難ヲ感ジタル程、雖カ相當潤澤ナル在外資金(十月十五日

現在三億三千六百萬圓一ヲ保有スルニ至リタリト雖モ右ハ一面移出ノ増大ニ比シ移入ノ減少ニ因ル處動カラズ域内通貨ノ膨脹ノ犠牲ヲ甘受シツツ域外へ物資供給ノ貢獻ヲナシツツアル證左ナリト謂ヒ得ヘン尙近時阿片ノ密移出ニ依リ銀券ノ需要増大シ七割程度ノブレミアム付ニテ銀券ト不正兌換ガ行ハレ銀幣拂出超過ハ九月ノミニテ一千萬圓ニ昇リ域内金融ノ悪影響ヲ與フベキヲ以テ之ガ対策トシテ十月一日ヨリ北京、南口簡ニ乘車東園、康莊間下車人銀者ニ對スル兌換額ヲ一、二等二〇圓三等一〇圓ニ制限シ北京ニ於ケル兌換ヲ廢シ其他之ニ件ヲ取締ノ強化ヲ圖ルコトトセリ

爲管管海ニ付テハ成紀七三二年（昭和十二年）九月三十日公布サレタル緊急通貨防衛令第九條ニ依リ該國銀行ヲシテ行ハシメ來リタル處翌年十月十八日陸軍海軍委員會令ヲ以テ通貨取締令、獸毛皮輸出取締令、毛皮類輸出取締令ノ公布乃至改正ガ行ハレ茲ニ本格的爲管管地ガ行ハルルニ至レリ之等法令ノ要旨トスル處ハ銀ノ輸出、一

千圓以上ノ爲管爲管及現金ノ搬出ヲ許可制トシ獸毛皮、麻類、亞麻仁等第三國向輸出物爲ニ對スル爲管ヲ該國銀行ニ集中スルニアリ而シテ該國ノ産業開發ハ漸ク盛ントナリ開發機材ノ第三國ヨリノ輸入漸増ノ傾向ニアリ決済外貨獲得ノ方法ナカリシニヨリ上記物種ノ輸出代々外貨ニテ取得シ決済ニ充當セリ然ルニ其ノ後産業開發ハ急速ニ促進セラレ之ニ件ヒ開發機材ノ輸入ヲ中心トシテ輸入激増シ國際收支ノ逆轉ヲ來スニ至リタル爲輸出爲管ノ全面的集中位ニ爲管管地ノ強化ヲ圖ル爲七三六年（昭和十六年）八月二十六日現行ノ爲管管地法ヲ制定交付シ九月一日ヨリ實施スルト共ニ貿易統制ヲ強化シテ輸入ノ抑制、輸出ノ促進及爲管ノ抑制ヲ主眼トシ貿易及爲管管地ノ計画的運営ヲ實施シ來リタリ

其ノ間別途爲管爲管爲管ノ方途ヲ講シ日本、滿洲及華北トノ間ニタレシツトノ設定ヲ見タリ

斯クテ産業開發ノ促進ト大東亞戰爭ノ勃發ニ因リ輸入ノ相對的減

鐵礦石、石炭、農産物等ノ輸出増加トナリ在外資金ハ漸次増加シツ
 ツアルニ加ヘ低物價政策ノ濫及物價調整委員會等ニ於ケル物價ノ
 調節ニ因リ華北ノ物價ニ比シ尙相當低キ水準ヲ保テツアリ從ツテ
 輸出向後等モ頓ニ増加シツアリ加フルニ現行爲管轄法ハ輸入ノ
 抑制、輸出ノ促進及送金ノ抑制ヲ主眼トシテ規定サレ居ル爲家古政
 府ニ於テハ最近之ヲ變更シ被仕向後等ノ抑制輸入ノ促進ヲ企圖シツ
 ツアリ更ニ日滿向後等ニ就テハ日滿兩國ニ於ケル爲管轄ノ方針ニ
 協力シ嚴重ニ實行シアリ而シテ七三四年以後ニ於ケル國際收支ノ狀
 況ヲ見ルニ左ノ如キ推移ヲ示セリ(外國爲管費買金額トス)

年次	受取勘定	支拂勘定	差引
成紀七三四年(昭一四)	一六六、六七〇	二〇〇、四四二(拂)	三三、七七二
七三五年(昭一五)	三三〇、九一八	三三六、二二一(受)	四七、九七
七三六年(昭一六)	一八七、〇四七	二一三、二八二(拂)	二六、二三五

七三七年(昭一七) 一七五、四〇五 二二五、三六七(受) 五〇、〇三八
 七三八年(昭一八) 四二七、〇一〇 三九三、三五〇(受) 二七、六六〇
 七三九年(昭一九)(七月) 四八〇、三〇二 三〇五、六三〇(受) 一七四、六七二
 尙現在ニ於ケル外貨管轄(十月十三日現在)及公債又ハクレジット
 保存高並ニ銀行、局預金、貸付狀況ヲ示セハ左ノ如シ

日本國/資金	二〇、四六四
聯銀/資金	二〇、七八九〇
滿洲國幣/資金	三七〇〇
特圓/資金	一〇、四二九五
計	三三、六三四九

クレジット	一〇、〇〇〇〇
對日クレジット	二〇、〇〇〇〇
計	一、〇〇〇〇〇

當座五〇〇〇〇
 手形貸付五〇〇〇〇

公債及債券
 日本國公債 一三〇〇〇〇
 滿洲國公債 一〇〇〇〇〇
 計 一四〇〇〇〇〇

銀行等電局預金等取引賣出狀況

年次	預		貸		出	
	蒙古政府	總計	蒙古政府	總計	總計	總計
昭和十六年末	二二九四	九三三六	一〇〇〇六	一五五三〇	一〇六八八	一六六三三
十七年末	一五三七	一四六九九	一六二二六	二七九八	一四七九五	二六八一九
十八年末	二〇六五	一九八〇八	二二八四五	二四三三	三二二四	三三五四五
十九年三月末	二六三一	一九八三五	二二八八六	一九三六六	三四七二七	三三五四三
十九年六月末	一七五七	二九〇〇五	三〇〇六三	二六八六	三六〇五六	三六八二二

註 預金中金融機關相互間ノモノハ之ヲ含まズ

二、交 易

蒙疆ノ對地城外交易ハ昭和十四年夏ノ水害ノ為極度ノ農産物輸移出不振ニ依リ入超ニ轉シ以來迎請ヲ續ケ來リタル方昭和十六年ニ至リ農産物ノ賣作及出廻促進策ノ奏功開發施設ノ一應ノ整備ニ依ル尙尙ノ導入數各種隘塞ノ振興ニ依ル輸移出ノ增加交易統制及爲替管理ノ強化ニ依ル不兼不要物資ノ輸移入減等ニ依リ遂ニ二二〇〇〇千圓餘ノ出超ヲ示シ爾來年々出超ノ狀況ニシテ地城外交易ニ對スル食糧並ニ原材料供給ノ實務ヲ果シツツアリ

尙昭和十九年度交易計畫ハ中央ノ方針ニ從ヒ對日期待ヲ極度ニ減少シ對日供給ヲ極力増大セシムル方針ノ下ニ策定シ關係方面ト協議ノ結果別表(イ)(ロ)ノ如ク決定セルガ其ノ主要物資ハ輸移出ハ農産物農畜産物特殊藥品類ニシテ輸入ハ食料品纖維製品其ノ他ノ日相品及開發用資材ナリ

又交易機構ニ付テハ他地城機構及地區内ノ實狀トヲ勘案シ適切ナル

戰前ノ設置經營ニ努力シ來リタル區ニシテ其ノ現況別表ハノ如シ
 (昭和十九年地域別交易計表) (單位：千圓)

地域	輸出額	輸入額	差	備考
日本	—	一三、五六一	—	日本OB買替物除 久、輸出ハ未定爲掲上セス
滿洲	一六四、八四四	二四、八八一	一三九、九六三	輸入ハ滿洲貨O互價格
華北	五三四、三四四	四三六、六五七	九七、六八七	特掲物ノミノ額ナリ
華中	(四三、五〇〇)	(四三、一〇〇)	—	—

(四) 交易趨勢 (單位：千圓)

年次	輸出額	輸入額	交易	尻
昭和十三年	一〇八、三九二	六七、五三三	(卅)	四〇、八五九
" 十四年	九七、〇五六	一三三、八八〇	(卅)	三六、八二四
" 十五年	一二三、六四七	一四八、〇三三	(卅)	二四、三八六
" 十六年	一七九、五三三	一四七、四三一	(卅)	三三、一〇二
" 十七年	二一〇、五六四	一九一、四二九	(卅)	一九、一三五
" 十八年	二四九、二六一	二四七、六〇六	(卅)	一、六五五
十九年七月迄	三一九、六八二	一七七、四三二	(卅)	一四二、二五〇

